

パネル発表要旨 (メインホール入り口付近に展示)

4年生・下級生の引き継ぎ集会での壁新聞

西東京市立保谷第2小学校

4年生が学年飼育しているが、一年間いろいろなことを経て、下級生に飼育を引き渡すときに、「命のバトンを渡そう」とのスローガンのもと、少しでも良く世話をしてもらいたいという気持ちから、世話の仕方や性格、生活のさせ方などを説明して書いた壁新聞を紹介し、ウサギを怖がらせないで抱く方法、チャボの抱き方を下から書いた図、目の見えないウサギを驚かさないでなど。

都下小学校3年生の家庭での飼育状況

西東京市学校獣医師 中川美穂子

2005年2月から3月にかけて都下小平市と西東京市でおよそ小学校12校900名の3年生に対して、家庭での飼育状況を調査した。飼育なしの子が52.7%であった。なお昆虫類やマリモなども「飼育している」と言った子も「飼育無し」に分類している。イヌや猫は安定して16から19%程いるが、後は魚が殆どであり、以前多かった小型ほ乳類や小鳥は今は殆ど飼われていない。現在のこともたちは飼育経験を持たない子が多く、飼育しても触れない水生動物の場合が多いことを表している。

パネル「動物は君の友だち」

豊かなこどもの心を育てるための動物飼育を考える獣医師の会
大阪府獣医師会学校飼育動物担当委員会 清水かおり

高槻市および島本町の獣医師の有志で結成した本会が、小学生を対象に企画・制作したのがこのパネルです。前半は家庭で飼われている犬や猫、後半は学校飼育動物について13組26枚のパネルにまとめました。こどもたちに、身近な動物に目を向け、その気持ちを思いやることで、動物と仲良くすることの楽しさや命の重さを知ってもらいたいという思いをこめました。平成15年度には、市内12の園・小学校を巡回しました。

栃木県獣医師会

学校飼育動物対策委員会

平成10年秋から栃木県教育委員会より依頼を受けて、「生きる力を育む学校作り事業」の一環として獣医師が教育現場で「ふれあい教室」を行っており、平成17年度現在、真岡氏、茂木市、大田原市、小山市、佐野市、足利市、さくら市の委託を受けて、授業支援をしています。その授業に使用しているスライドを紹介いたします。

平成16年度より県の委託を受けて、全県で「小学校小動物飼育指導担当教員研修会」を行っています。

群馬県獣医師会

学校動物愛護指導委員会

群馬県動物ふれあい教室事業について 動物とふれあうことにより子ども達が「やさしさ」と「命の大切さ」を感じられるように、群馬県では平成10年度から獣医師を「校医」として小学校に派遣する事業を始めました。生活科の授業を重点に子どもが動物と楽しく遊び、怖がらずに動物を抱ける指導「動物ふれあい教室」をT・T方式で実施しています愛情飼育を基本に動物介在教育として取り組んでいる指導実施例と教材などを紹介致します。

大学附属農場の飼養家畜を活用した実践的生命科学教育の試み

宇都宮大学畜産学部 長尾慶和

宇都宮大学農学部附属農場では、平成11年度より様々な子ども向け教室を開催してきた。乳牛を活用して実施する「クローン牛作りにチャレンジ!」もその一つである。本教室は、子供たちやその保護者に農業や生命科学に対する理解や興味を深めてもらうことを目的に、乳牛舎における搾乳実習や人工授精実習と、実験室における精子や卵子を用いたバイオテクノロジー実験を複合させた内容で行ってきた。概要をポスターにて紹介する。

動物介在教育のプログラム開発とその実践 特に長期・短期飼育プログラムの利点と問題点について

帝京科学大学 理工学部 アニマルサイエンス学科

横井恵 田邊かえで 山崎郁 田村麗 村木佑実 広瀬千絵美 花園美樹溝端真也 小檜山祐介 花園誠

動物介在教育は、動物を学童の教育に活用しようとする試みである。しかしそのプログラムは未整備であり、検討すべき課題も多い。我々のグループでは地域の小学校と連携、各小学校の事情に応じたプログラム開発に取り組んでいる。今回は、長期間継続してもしくは短期間に限定して学童に動物を飼育させた試みについて報告、その利点と問題点について整理したい。